

は「年に1回以下」との半数を占めた。同社は「美コン内部は高温湿度で風呂のカビが発生しやすい工梅雨入り前に対策を」とる。

は全国の20〜60代の男女人を対象に実施した。結果、最もカビが気になるとは「梅雨」が6割以上で、「カビが気になる場所は広いで「エアコン」が約3狭いスペースで高温湿度」が約3割だが、大きく差が開く

エアコン清掃「年1回」

「見」も湿度高内部 富士通ゼネラル

ついでには約6割が「やり方が分からない」と回答。複雑な構造のため「見て見ぬふり家電」になっている実態が浮かび上がった。

同社の担当者は「エアコン内部を乾燥させるとカビ対策になる。内部乾燥機能がない場合は、運転後に30分から1時間程度、送風運転を」と説明。フィルタに付着したほこりや汚れもカビ発生、「栄養分」になることから、清潔な状態を保つことが必要としている。

(宮崎 功一)

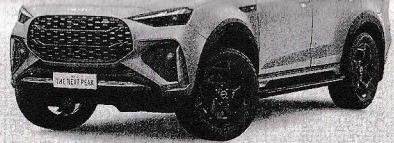
で発売 能を拡充

スポーツテイさを強調している」としている。また、新世代ステレオカメラを採用し、安全機能を拡充させた。交差点進入時や対向の横断歩行者を検知し、危険時には自動ブレーキが作動、衝突を防ぐという。

同日にタイで実施した商品発表会で南真介社長は

「MUVは、いすゞブランドをグローバルに力強くけん引する主力商品の一つであり続けると確信する」とコメントしている。MUVは、7人乗りのSUVで、タイのほか、オーストラリアや南アフリカなど、世界60カ国以上で販売している。

(森 俊平)



で発売した新型MUVは、

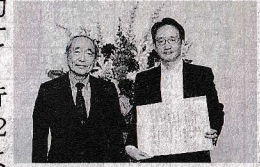
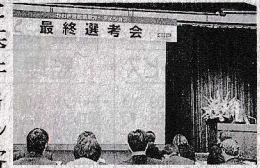
で割れたりしにくい。10リットル入りで価格は1650円。問い合わせは、通話無料の愛用者室(0120)147420。



■メールの開封率向上サービス「件名A I」

日々、多くの人々は業務連絡やメールマガジン、迷惑メールなど、数多くのメールを受信している。そして、これらのメールの受信者は、たった十数文字の件名で開封するか否かの判断を下す。企業がいかに優れたメールコンテンツを作成しても、開封されなければその努力は無駄になってしまうのだ。

この課題に対処するため、グローバルMA（川崎市中原区、福嶋信代表取締役）は、マーケティングオートメーションと呼ばれるマーケティング活動を自動化する概念に基づき、メールの件名に着目した新しいサービス「件名A I」を開発した。このサービスは、チャットGPTなどの生成A I（人工知能）を活用してメールの件名を自動で生成し、加えて、評価用A Iで顧客情報と過去のメール配信履歴を分析し、最も効果的な件名を選定して対象者ごとに自動的に割り当てて開封率を上げる仕組みだ。



「件名A I」を導入した株式会社SBI新生銀行は、ウェブ外貨取引の施策で、メール開封率を50.2%から59.6%へと向上させる成果を上げた。このような実績が高い評価を受け、グローバルMAは川崎市産業振興財団主催の「第138回かわさき起業家オーディション」で「かわさきビジネス・アイデアシーズ賞」を含む五つの賞を獲得した。「件名A I」は、今年中にウェブアプリ化し、本文自動生成技術を拡充する予定である。

マーケティングオートメーションを導入したものの使いこなせていない企業は多い。技術的な側面だけでなく、マーケティング戦略や顧客のニーズを理解することが必要となる。同社は従業員10人程度のベンチャー企業ではあるが、ITスキルだけでなく、ビジネスモデル研究、コミュニケーション能力向上など若手の育成にも力を注いでおり、そのような企業の懸け橋となる「人財」を育てることを目指している。

福嶋社長＝写真＝は、「やみくもに規模の大きい企業を目指すというより、一人一人のメンバーの力を向上させ『マーケティングオートメーションの本当の力を引き出す専門家集団』として、成長していきたい」と語る。

株式会社グローバルMA 〒211-0041川崎市中原区下小田中3の1の60 ☎044(789)8876 <https://glocalma.jp/contact/>
(情報提供・川崎市産業振興財団)

ホンダは13日、軽自動車タイプの新型商用電気自動車（EV）「N-VAN e」（エヌバンイー）を10月10日に発売すると発表した。騒音が少ないEVは住宅街での配送などに適しており、法人向けを中心に需要拡大が見込まれる。ライバル各社も商用EVの開発を進めており、競争となりそうだ。

エヌバンイーの航続距離は245キロ。大容量バッテリーの採用で、先行他社より長い距離を確保した。同時に部品の小型化により、広い車内を実現したという。

希望小売価格は243万円9800円からで、一部はリース契約。各種の補助金を活用すれば、実質負担額は200万円を切ることも可能という。

当初は今春の投入予定だ



ホンダの新型商用EV「N-VAN e」
13日午前、埼玉県和光市

は「三菱自動車が昨年に「ミニキャブEV」（航続距離180キロ）を発売した。日産自動車は今年2月、三菱から相手先ブランドによる生産（OEM）を受け、ミニキャブEVをベースとした「クリッパーEV」を投入している。

トヨタ自動車とダイハツ工業、スズキも共同開発しているが、ダイハツの認証不正問題の影響で発売が遅期となっている。